

！市民のわ

フレッシュさん

このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介します。



鯨津 仁希さん
ときつ さときさん(21歳・石崎町)

6月5日から6日にかけて和倉温泉で行われる「能登よさこい祭り」に向けて忙しい毎日を過ごす鯨津さん。職場の山田建設工業(中島町中島)には19歳の夏から勤めており、建物工事・建物の外工事・道路工事など幅広い仕事をこなす。「力仕事には自信があるけど、現場では細かい作業もあるので少し苦手」とも明かす。「よさこい」は人とのつながりができるし、みんなが集まることはとても楽しい」と話してくれた。

◆休日の過ごし方は？

イベントなどによく参加しているので、ほとんど家にはいません。万葉マラソンでもよさこいのブースに参加しました。

◆今後の七尾に期待することは？

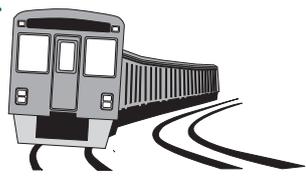
人が集まる場所やイベントがもっとたくさんあればいい。若い人がもっと動ける場がほしいですね。

出身地 青森県三戸町



このコーナーでは、県外から市内へ転入された方の声を紹介します。

思えば遠くへ来たもんだ



小島 孝子さん
こじま たかこさん(和倉町)

長野県のホテルで観光プログラム作りなどに関わり14年間勤務。その後、縁あって18年7月に七尾へ。21年7月からは和倉温泉旅館協同組合で勤務している。

20年7月から1年間無職の時があり、「帰ろうとも思ったが、いろいろなところに顔を出すうちに能登の魅力にとりつかれてしまった。『能登はやさしや土までも』とよくいわれますが、それが体に伝わってきました」と話す。地元の人とのさまざまなお出合いが、今の仕事にも生かされているという。

「豊かな自然や歴史・文化などたくさんあるけど、まだまだ生かされていない。過去の経験から、地元と観光客の目線の両方を持っているつもり。能登の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいですね」と話す。

◆お気に入りのポイントは？
のと鉄道からの景観は◎。自家用車やバスからではない景色が楽しめますね。

等伯に学び、 等伯を活かす



七尾市長
武元文平

等伯没後400年の大回顧展が盛況だ。80点の作品を観てスケールの大きさと色使いや構図、デザインの斬新さに驚かされる。同時に、一人の画家がこれほど違った絵を描けるものなのかも驚かされる。豪華絢爛な金ぺき画から墨絵までの作品を観て、等伯が絶えず現状に満足せず、常に前向きに新しいものに挑戦し続けた画家であったことが想像される。

水墨画の最高峰と評される国宝「松林図屏風」の前に立つと、400年の時を超えて観る者の胸を打つ。画面の空白や霧の中からは俗なものや余分なものがそぎ落とされ、等伯自身の心象・苦悩や宗教観を表現したのではないかといわれている。その心底に能登の風土や文化、宗教的土壌(能登法華宗)があったことは想像に難くない。

七尾で生まれ、30歳を過ぎて京に上った地方出身の田舎絵師が、最高権力者の秀吉の仕事を得て天下一の絵師にまで昇りつめた。その等伯が育った当時、七尾は畠山義総の治世下で最も繁栄していた時期。京の都との交流が盛んな文化都市でもあった。

今、天才画家・等伯を生んだ七尾が注目されている。多くの方が等伯の生まれ育った七尾の文化や歴史、風土を知りたい、七尾を訪れたいと思っており、七尾を全国に発信する絶好の機会といえる。

先日、小丸山小学校の生徒が描いた墨絵が、等伯の「龍虎図」を所有するアメリカのボストン美術館に送られた。美術館からは「生徒の墨絵は大変素晴らしい。美術館のブログに載せて紹介したい。2012年には龍虎図を日本で展示するからぜひ観てほしい」との返事があった。等伯の生誕地・七尾がアメリカでも認識された。評価される機会を作った小丸山小の取り組みに大きな拍手を送りたい。

昨年は「マクベス」で全国発信したが、今年は「等伯」で七尾を売り出したいもの。同時に等伯の生き方に学び、ふるさと七尾を再発見する年にしましょう。



このコーナーでは、市内のクラブ活動やサークル活動を紹介します。



中島レクリエーションクラブ (中島)



スポーツが苦手な子どもたちでも楽しんでできる運動はないかと考え、平成13年にニュースポーツクラブとして発足したのがはじまり。ドッジボール、キックベース、おにごっこ、なわとびなど、子どもたちの声を聞きながら、参加者がおもしろいと思う活動を取り入れている。公民館や少年自然の家などでの宿泊研修(年3~4回)も行い、体育活動だけでなく、ものづくりなどの文化活動にも取り組む。宿泊研修では、子どもたちが普段見せない一面も見られ、生き生きとした表情が見られるという。

現在は小学校1年から高校2年までの28人が所属。毎週土曜日の19時30分から21時まで、中島体育館で練習を行っている。

「中学生や高校生は、小さい子どもの面倒をよくみてくれるし、小さい子も上の子をよく慕っている。遊びの中から子どもたちは自然に上下関係も学んでいるようです」と世話人を務める羽左間さんは話す。

問 薩麻 ☎66-6446

市長と気軽に お話しませんか？

日頃感じているまちづくりや生活環境など市政への思いやアイデアをお聞かせください。(個人・グループどちらでも可。1組30分以内)

●4月27日(火) 15:00~17:00
会場：田鶴浜市民センター 2階第1会議室

●5月11日(火) 15:00~17:00
会場：七尾市役所 1階102会議室

※申し込みは1週間前まで
(※公務により中止になる場合あり)

問・申 市民男女協働課 ☎53-8633